

1 研究構想

(1) 研究主題

**栄一翁の志を受け継ぐふるさと教育の充実**  
 ~ふるさと教育に係るカリキュラムの弾力化を通して~

(2) 主題設定の理由

本校は全校児童数111名おり、全学年単学級で構成されている。学区内に渋沢栄一翁の生家である「中の家」を有し、学校に隣接して「渋沢栄一記念館」がある。栄一翁生誕の地の学校として、『立志』と『忠恕』を学校の教育目標の礎に置き、子供たちの育成に努めている。

児童は学年に応じて、栄一翁の生き方や偉業に触れ、それらを語り継ぐ地域の人との交流を通して、自分たちのふるさとについて学んでいる。今住んでいる場所が、自然や文化、人材等に恵まれていることに気付いている一方、ふるさとに対する積極的な関心や新たな価値を見いだそうとする意識までは高まっていない。

2021年には栄一翁を題材にした NHK 大河ドラマ「青天を衝け」が放映され、2024年には栄一翁が新1万円札の顔となるこの機会に、改めて、栄一翁の生き方に触れ、受け継がれてきた先人の思いや、郷土の自然や文化について学ばせていきたい。そして、地域ならではの特色に触れながら、地域の伝統的な行事に参加したり、地域の様々な方々と交流したりして、ふるさと「八基」の未来を思い描けるような児童の育成を目指していく。人との双方向の交流や栄一翁に関わる体験活動を充実させることで、ふるさとの魅力を知るとともに、今日的な課題を発見し、主体的に解決する等、ふるさとの未来について進んで考え、持続可能な社会で生き抜く能力を育成したいと考え、本主題を設定した。

(3) 目指す児童像

◆渋沢栄一翁の志を受け継ぎ ふるさとを愛し 夢と思いやりの心をもつ 八基の子

(4) 研究仮説

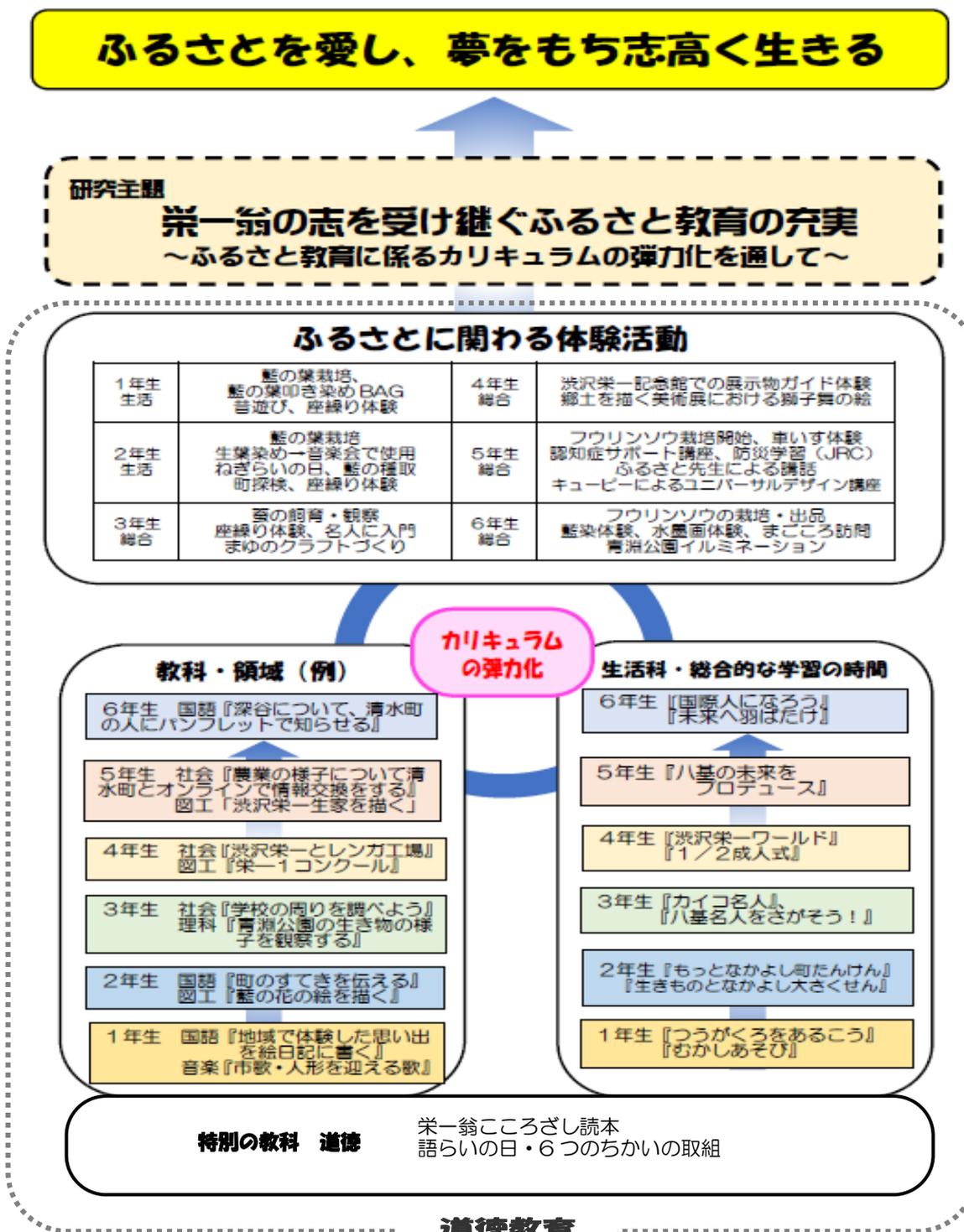
ふるさと教育を軸として、カリキュラムを弾力的に運用し、渋沢栄一翁に関わる教育活動を充実させることができれば、ふるさとを誇りに思い、八基の将来を担う子が育つであろう。

(5) 研究組織



(6) 全体構想図と授業時数特例制度の活用について

【ふるさと教育全体構想図】



1、2年生「生活科」、3～6年生「総合的な学習の時間」で、ふるさとに関わる豊かな体験活動を実施する。そして、体験したことを国語で日記に書いたり、社会で新聞にまとめたり、図工で絵に表したりするなどして、教科等横断的にふるさと教育を充実させる。





### (3) 成果○と課題●

○ふるさと教育を軸として、カリキュラムを弾力的に運用したことで、栄一翁に関わる教育活動を充実させることができた。様々な体験活動を生かしながら、教科等横断的な視点でカリキュラムを見つめ直すことで、教師にとっても、児童にとっても教科を超えた学習の結びつきがあることが分かった。八基に受け継がれている教育活動を教科・領域等と繋ぐことにより、「ふるさと教育」を持続可能な方向につなげることができた。

○体験活動シートや掲示物等を作成することにより、八基に根付く教育活動の「見える化」が図れた。記録を残すことで、授業者が変わっても今後も活動を持続させていくことができる。

●喫緊の課題が「地域を担う人材の減少」である。豊かな体験活動を充実させていくためには、地域人材の確保は必須である。八基の魅力を発信しながら、地域・家庭・学校が一体となって、地域を担う児童を育成することが今後の課題である。